

データセンターあしがき

今年度も、全国の移植登録施設のみなさま、関係者のみなさまのご尽力により、全国調査報告書が発行できることとなりました。

2014年1月に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行され、これに基づき日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）が「造血幹細胞移植の患者やドナー情報の収集・分析」を国の支援のもと担うこととなり、4年が経過しました。2015年1月にリリースした第二世代移植登録一元管理プログラム（TRUMP2）は運用3年目となり、全国の300を超える移植診療科にて安定して利用されるようになりました。TRUMP2は、造血細胞移植アウトカムデータをオンライン一元管理することを目的として開発されたWebデータベースです。第一世代TRUMPにて課題とされていた非血縁者間移植における日本骨髄バンクや臍帯血バンクが管理する患者・ドナーのHLAや輸注細胞数情報等をオンラインデータ連携することで、施設における入力の手間を軽減するとともにデータの質の向上が期待されます。入力データの質管理は、緻密な作業であります。JDCHCTでは、今後さらにデータの質の向上につなげられるよう努力してまいりたいと存じます。

データ利用申請件数は増加、また多様化してきています。データ収集と管理およびデータの利用管理を担うJDCHCT造血細胞移植登録一元管理委員会、JSHCTワーキンググループ（WG）の運営とWGが実施する研究を管理するJSHCT造血細胞移植登録一元管理委員会の役割はより大きくなってきています。委員長、委員の方々にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。JSHCTワーキンググループ（WG）および、そのほかデータ利用申請による、TRUMPデータを用いた研究活動性の高さは、巻末のWG活動報告書や業績一覧でよくわかります。日本発の、TRUMPデータを用いた解析結果が多く出るようになり、これらが次の移植医療に反映されていく現状を踏まえましても、その質の担保にさらに力を入れていく責務を感じております。

JDCHCTでは、2017年1月に臨床試験部門を設立しました。2018年3月から、血縁ドナーの安全性情報登録もJDCHCTでの管理を開始しました。全国の移植登録施設のみなさま、関係者のみなさまが必要とされるものに、一つ一つ丁寧に取り組み、造血細胞移植医療の発展に、データセンターとして貢献ができるよう努力してまいります。引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

日本造血細胞移植データセンター	センター長	熱田由子
	システム担当	坪井秀樹、浅野充洋
	データ解析担当	倉田美穂、柳澤昌実
	データマネージャー	伊藤千佳、米山結美、中尾有佳里 日沖友美、松原奈津希、前島菜月 小林静香、水谷典子
	事務局	松原有希、山田達也、加藤奈央